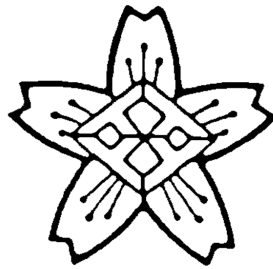


# 板橋第四小学校の歴史と文化

令和5年（2023年）版



創立95年

学校支援地域本部  
地域コーディネーター 発行

## 1.わたしたちの町

### (1)板四小のあるところ

板四小の校歌に「大東京の北の門…」とあるように、板橋区は、東京都の北の方に位置しています。板四小は、その板橋区の南東のはじの方にあります。学区域は北区、豊島区とも隣り合っています。

子どもたちは、学校がある板橋四丁目をはじめ、板橋一、二、三丁目、加賀一丁目(今は金沢小学区域)などから通っています。

わたしたちの町の大部分は、三〇メートルほどの高さの武蔵野台地の上であり、表面は、関東ロームといわれる赤土でおおわれています。

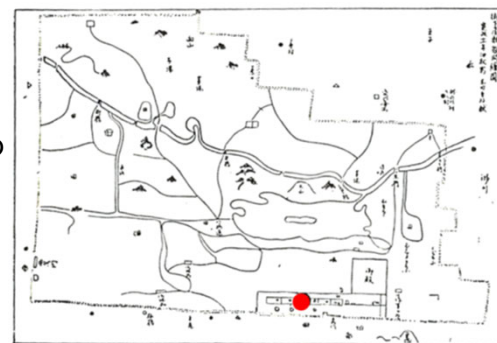
### (2)江戸時代のころのようす

今から三百八十年(昭和53年当時からみて)ほど前、徳川氏が江戸にうつって、江戸城や江戸の町をつくりました。

そのころの板橋は、まったくのいなかで、山林・草原・畑がほとんどでした。人の住む家は、ところどころに一、二けんあるくらいのものでした。

#### ●加賀屋敷

江戸時代、板四小のあるところには、加賀の国(今の石川県)金沢の殿様の前田家の下屋敷(別荘のようなもの)がありました。その敷地はとてつもなく広く板橋区から北区の方にまでひろがっていました。屋敷の中には、石神井川が流れ、山や池、水田や畑があったほどでした。加賀一丁目の「加賀」や、金沢橋の「金沢」はその名前がのこったものです。



加賀屋敷園(前田家) ●印のあたりに板四小があります

#### ●中山道

中山道は、江戸から京都の近くまでつづく道です。三百年あまり前から、たくさんの殿様(大名とよばれた)が、お供をつれて通ったり、旅人も大ぜいいききしていました。板橋にも宿場がもうけられ、宿屋がたくさんつくられました。住む人もふえて、にぎやかになりました。今の学校の近くにも、平尾宿、中宿などがあり、その名前は、「平尾」交番、「仲宿」商店街の名にのこっています。



『木曾街道板橋之駅 1835年 漢斎英泉 国立国会図書館蔵』

江戸期の「平尾宿」には、「中山道」と「川越街道」の分岐点「平尾追分」があった。明治期以降も交通の要衝であり、周辺は賑わった。写真は、1932(昭和7)年の東京市への編入・板橋区誕生を記念して作成された絵葉書で、右上には現・練馬区の「豊島園」(のちの「としまえん」、2020(令和2)年閉園)が掲載されている。練馬区域は編入当初は板橋区であったが、1947(昭和22)年に分離独立した。



生田誠氏提供

## 加賀 前田藩 下屋敷跡

江戸時代、加賀百万石と言われた前田藩は、江戸に上屋敷・中屋敷・下屋敷を持っていました。上屋敷の跡地が赤門で有名な東京大学です。観明寺の赤い門は下屋敷の門だったといわれています。板四小は下屋敷の敷地内にあります。このあたりは「平尾宿」と言われていました。現在は「平尾交番」にその名を残すのみとなっています。

下屋敷の炊事場があったのが板四小と北園高校のあたりだそうです。北園高校の正門から板四小の西門の間に9つの井戸があったそうです。

そして池だったところに板五中と金沢小があります。金沢小はカモ撃ち場だったそうです。現在、唯一の名残は加賀公園です。古地図にも鳥居のマークが残っています。(ということで、加賀小、加賀中は下屋敷の敷地内ではないんですね)



### (3) 明治・大正のころの様子

今から百十年ほど前(昭和53年当時からみて)、江戸が東京とかわり、年号が明治となりました。

このころ板橋宿は、江戸時代ほどのにぎわいはありませんでしたが、旅館や料理屋が多く、群馬県や長野県、新潟県からの絹を売る商人などが多く利用していました。また、東京、埼玉、群馬県をつなぐ馬車もかようことになり、荒れたままになっていた中山道も直されました。

しかし、このころ板橋宿の様子を大きく変える二つの事件が起こりました。

それは、鉄道の建設と、板橋の大火事です。

#### ●鉄道の建設

明治16年(1883年)上野・熊谷間に鉄道が敷かれました。

はじめこの線は、板橋宿を通過して中山道に沿ってしかれる予定でしたが、町の人々の反対で、今の赤羽線のところに建設されました。その結果人々は、便利な鉄道の方を利用し、板橋宿の方へは来なくなってしまいました。

#### ●板橋の大火事

鉄道がしかれたよく年の明治17年(1884年)12月4日、「岩の坂」で起きた火事は、板橋宿の大半を焼いてしまいました。

この二つの事件で板橋宿は、すっかりさびれてしまいました。

#### ●王子新道

板橋がさびれるのと反対に、このころ王子ふきんには工場がいくつもできて栄えていました。ところが板橋から王子に行くのによい道がありません。このときの町長の花井源兵衛さんや町の人たちは、板橋をさかえさせるために新しい道をつくることを考え、板橋町やまわりの町や村、東京府に何どもおねがいしました。そのけっか、明治21年(1888年)にやっと王子新道ができあがりしました。今、区役所前から金沢橋をこえていく道路がそうです。

#### ●板橋駅

明治18年(1885年)には、今の国鉄板橋駅がつくられました。しかしそのころの町の中心は板橋宿(今の不動通りのあたり)でしたから、駅のまわりには家はなく、米や野菜のつみ出しがおもで、人ののりおりもほとんどなく、さみしい駅でした。

その後、東上線の開通、バスや市電の開通など、交通が発達しました。また、宿場からはなれたところには人家もまばらだったので、軍隊のための武器や火薬をつくる工場をはじめ、いろいろな工場が区内にたてられました。



学校周辺の過去と現在 三井トラスト不動産「このまち」アーカイブスより引用

●平尾交番付近



●駅前本通り商店街



●不動通り商店街



1873(明治6)年、明治に入り衰退しつつあった旧「板橋宿」の活気を取り戻すため、「観明寺」の住職が千葉の「成田山新勝寺」から不動尊を勧請。周辺は毎月4回の縁日で賑わうようになり、門前のあたりの「中山道」は「不動通り」とも呼ばれるようになった。写真は1954(昭和29)年頃の「不動通り」の様子。

## 2. 学校創立のころ

### (1) 人口の増加

大正12年(1923年)9月1日、東京・横浜を中心に関東地方に大地震が起きました。関東大震災です。ちょうどお昼どきで、あいついで火災がおこり、沢山の家が焼け、十万人近くの人が亡くなりました。

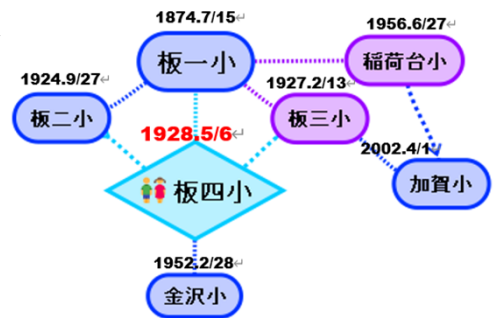
板橋区は震源地から離れていたことと、人家が少なかったために、ほとんど被害はありませんでした。そのため、多くの人々が都心から移り住み、人口も急に増え、畑が住宅に変わっていきました。

### (2) 板四小の誕生

人口が急に増えたので、板二小(大正14年:1925年)、板三小(昭和2年:1927年)が次々に作られました、それでも間に合いません。

そこで板四小が作られることになり昭和12年(1937年)4月1日に、東京府北豊島郡板橋第四尋常小学校として開校しました。

そして5月6日に開校式が行なわれたので、この日が開校記念日とされました。



板四小が建てられた土地は、三五ッ原とよばれ、広い野原でした。これは豊臣秀吉の家臣であった宇喜田秀家が八丈島に流され、その宇喜田家が前田家と縁戚だったことから、東光寺にも宇喜田秀家の墓があります。そこからこの辺りを「八丈」と呼んでいましたが、表現がそのまま島流しを想起させることから、8=3+5で「三五ッ原」と地元では呼ぶようになったそうです。板四小の校歌にも「三五の原」と歌われています。

### (3) 学校の様子

開校のときの校舎は、新しく建てたものではなく、今の港区の白金小学校の古い校舎を移したものでした。それでも当時としては、立派な建物だったといわれています。

校庭は高い所と低い所の二段になっていて、朝礼などは上でやり、運動会などは下でやりました。今とちがって校庭が土なので、冬になるとしもでぐちゃぐちゃになり、遊べなかったそうです。

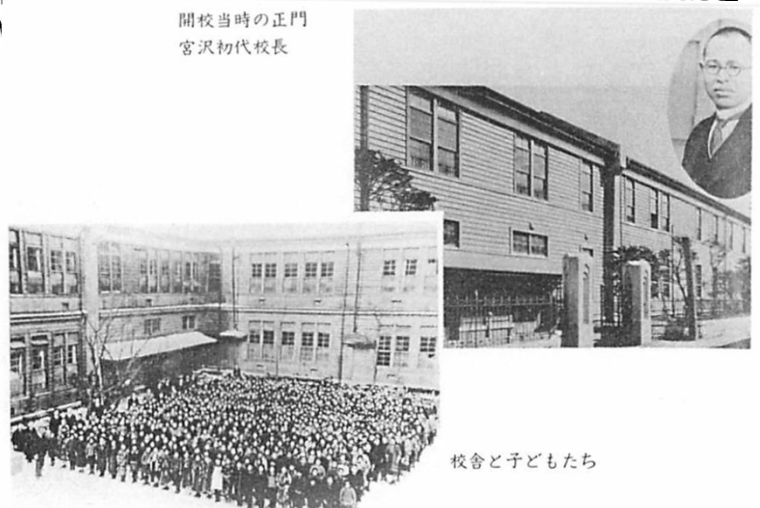
学校の周りには家は五、六けんしかなく、あとは金沢橋の方まで見わたすかぎりの原っぱでした。

子どもたちは、今の一丁目、二丁目から通っていました。開校の後しばらくは教室が足りない、午前と午後に分けて授業を行っていたそうです。(二部授業とい

子どもたちの中には、着物を着て学校大きな砂場があって、相撲をして遊んだり、石けりや鉄棒、ろくぼくで遊んだりしたそうです。

学校のまわりでは、野原で野球したり石神井川で泳いだりして遊ぶこともできたそうです。

開校当時の正門  
宮沢初代校長



校舎と子どもたち

### 3、戦争中の学校

#### (1)太平洋戦争のころの学校

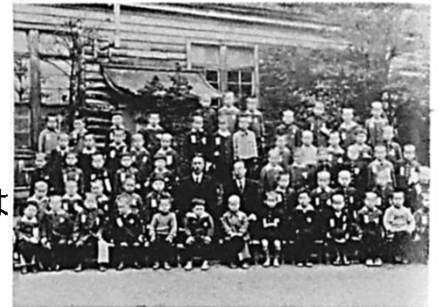
昭和12年(1937年)におきた日本と中国との戦争は、ますます大きくなっていきました。

昭和16年(1941年)には、太平洋戦争がはじまり今までの尋常小学校は、国民学校となり、本校も東京市板橋第四国民学校と校名が変わりました。「お国のために」つくす国民を育てる学校ということでした。

このころの教科書には、戦争のことを書いたものがたくさんありました。「ススメススメ、ヘイタイ、ススメ」という文も載せられるようになりました。

#### (2)太平洋戦争のおわりごろの学校

昭和18年(1943年)には、東京府から東京都に変わりました。子どもたちは、登校、下校の時に、奉安殿の前で天皇の写真に礼をしました。



奉安殿の前でうつる

このころからどこの学校でも防空避難訓練を行なうようになりました。東京も空襲をうけるようになりました。男の人は国民服を着るよう決められました。兵士の服に似た服を先生方も着ました。女の方は、モンペをはきました。戦争がはげしくなると、生活用品もだんだん不足するようになり、配給制度もでき、自由に物が買えなくなってきました。

#### (3)集団疎開

太平洋戦争は後半になると、連合軍が優勢になってきて、南太平洋の基地から飛びたつた米軍機が日本本土の大都市を空襲するようになりました。そこで、都会の子どもたちや、お年寄りの方々は、比較的安全ないなかへ避難して生活を始めるようになりました。先生や友だちなどと一緒に避難することを「集団疎開(または学童疎開)」といいました。板四小では、昭和19年(1944年)8月25日当時の三年生以上531名が群馬県沼田町(現在は沼田市)へ集団疎開することになりました。



(疎開したお寺の前)

宿舎は町にあるお寺です。六年生男子は寄林寺に、女子は三光院というふうにくつかりのお寺に分散して、朝起きてから、夜ねるまで、先生方や友だちと常に一緒に生活を続けました。両親や兄弟と別れてくらす毎日は、つらいことも悲しいことも少なくありませんでしたが、なかでも食糧不足は食べざかりの子どもたちにとって、何よりもつらいことでした。栄養不良から健康を害したりすることがあっては大変です。そのために、先生方やお寺の方々もたいへん苦労されました。

授業は町の小学校の教室を借りて行なわれました。ときにはふきんの山へ遠足にでかけたり、近所の農家のお手伝いに行ったりしました。家の人たちとは、普段は手紙でやりとりしていますが、ときどき、東京から会いに来てくれることがあります。これを「面会」といって、疎開児童にとっては一番の楽しみでした。

沼田の寒い冬を過ごして12月になると、六年生は卒業のため、空襲の激しい東京へ帰って行きました。残った五年生以下の疎開児童は、沼田でそれぞれ進級しました。その年の5月25日、板四小の校舎(木造)は空襲にあって全焼しました。

(1945年)8月15日、戦争が終り、疎開児童は10月23日に沼田から懐かしい我が家に戻ったのです。

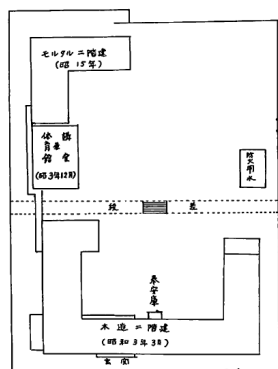
(手塚実さんの話)

## 4. 戦後の学校

### (1) 新しい学校のはじまり

戦争が終って、都内の多くの学校は、校舎が焼け、「青空教室」や他の学校やお寺などを借りて二部授業をやっているところが多かった。

本校も昭和20年(1945年)5月25日に焼けてしまい、昭和20年(1945年)5月に板橋第一小学校を借り授業を始めました。昭和20年(1945年)10月には、都立九中(北園高校)に移りました。昭和20年(1945年)10月には、疎開した子どもたちも帰り、12学級で授業が行われました。教室が少なかったため、二部授業(午前組と午後組に分かれて勉強する)が行なわれていました。二部授業は、分教場(今の金沢小学校)ができるころまでつづきました。



創立から焼けるまでの校舎  
思い出話からの想像図



創立当時の学校の様子 (想像図)

### (2) 学校での勉強

戦争前の勉強は、修身、国語、国史、地理、算術、理科、体操、音楽、図画、工作、裁縫、習字、などで、戦後は、昭和53年ころと同じ内容の勉強になりました。

通信簿も甲、乙、丙、から優、良可へ、戦後は、5, 4, 3, 2, 1と五つに分けてつけられるようになり、昭和48年ころから五段階から今のような三段階でつけられるようになり、ようになりました。

教科書もたのしいものにかわってきました。

### (3) 給食のはじまり

戦争のため農作物が作れなくなり一人分の食べる量は少ししか配給されなかったのです。多くの人々が栄養失調で、体がひよろひよろになってしまいました。

こういう時代に生まれたのが学校給食です。二十一年から魚、かんづめは東京都から野菜は青果市場からいただいてはじまりました。二十五年から東京都内の全小学校が完全給食になりました。

このころは、ふきんを敷いてパンや食器をおきました。牛乳やマーガリンなどはなく野菜のしゅるいも少なかったのです。給食費はひとりーか月140円ぐらいでした。



給食の様子



#### (4)校歌ができる

昭和28年(1953年)創立二十五周年記念として校歌が作られました。

板橋一丁目に住んでいた池上作一二氏が、詩人西条八十氏と親しかったことからあっせんをお願いしました。学校からも多くの資料をお送りしたり、学校にもたずねてこられいろいろ調べてりっぱな詩ができあがりしました。

作曲についても西条氏のおせわで古関裕而氏をお願いしていただきました。昭和29年(1953年)12月2日にいま歌われている校歌ができたのです。

また、「第四」を「だいよん」と読むのか、「だいし」と読むか、というのが、年代によって異なるそうです。なぜかという、作詞家の西条八十先生は「だいよん」としてつくり、一方、その歌詞に曲をつけた小関祐而先生が楽譜に「だいし」とふったのだそうです。

#### 板橋第四小学校 校歌

作詞西条八十

作曲古関裕而

##### 一、大東京の北の門

三五の原にあつまるわれら  
心は正しくからだは強く  
若葉のようにあかるく伸びる  
われら われら われらは板橋の  
元気な第四小学生

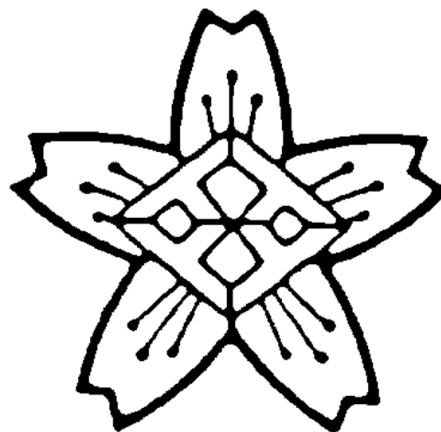
##### 二、西空高くそびえたつ

けだかい富士はわれらの理想  
仲よくはげんで智徳をみがき  
りっぱになう未来の日本  
われら われら われらは板橋の  
元気な第四小学生

#### (5)校章の由来。

「イ」が4つで四を表しています。

桜は、板一小が桜の校章で、その分校であることから同じ桜をあしらっています。



## (6)三十周年のころ

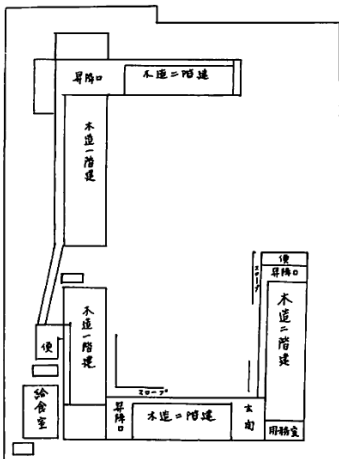
昭和34年(1959年)2月6日に創立三十周年の記念式が行なわれました。この前の年に鉄筋校舎六教室(当時の一番古い校舎)ができ、その落成式も同じ日に行なわまそ』うれました。校庭の舗装(今ぬられている下の部分)もできあがりました。

昭和38年(1963年)には、体育館、四階鉄筋校舎(今の理科室などのある校舎)もできあがりました。校舎はりつばになり、体育館もできたので、学芸会や入学式、卒業式などをするのに大へんべんりになりました。

### 校舎の想像図(回想に基づく)

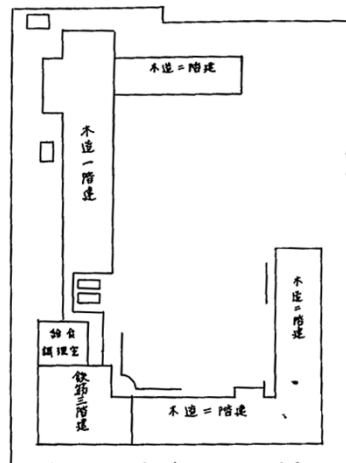
昭和21年11月～昭和33年6月

1946年～1958年



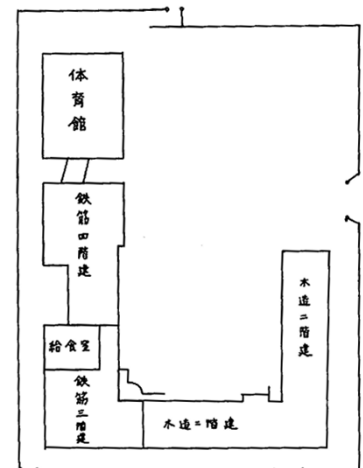
昭和33年6月～昭和38年

1958年～1963年



昭和38年～昭和41年

1963年～1976年



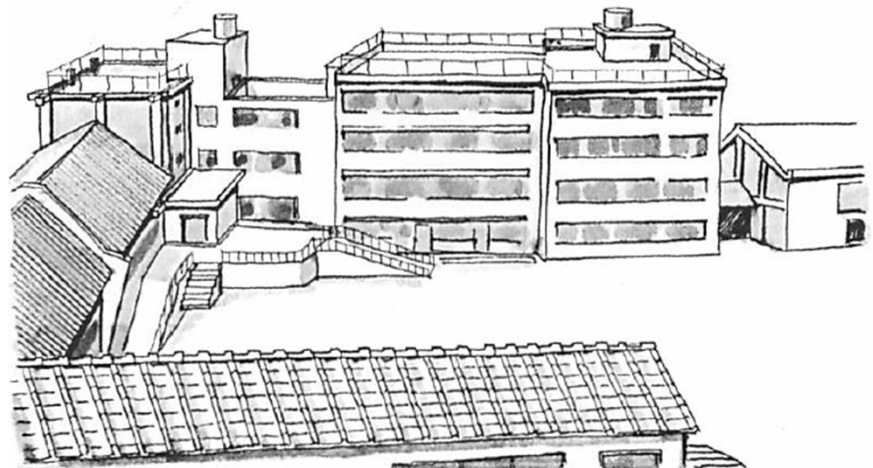
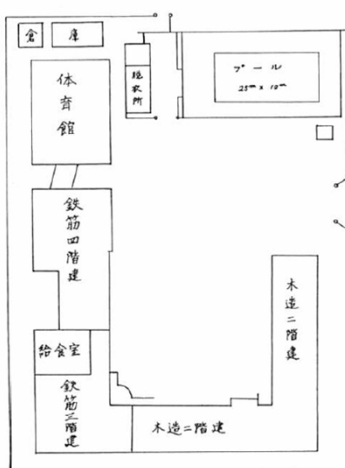
## (7)四十周年のころ

昭和43年(1968年)11月26日に創立四十周年の記念式典が行なわれました。

昭和41年(1966年)には、まちのぞんでいたプールが完成しました。子どもたちはのびのびと泳いでいました。プールのない学校もまだありました。

この年に、中山道を走っていた都電がとりはられ、四十三年には、地下鉄都営六号線が開通しました。べんりになったのと反対に、交通地獄。公害。子どもの遊び場のへったことなどが問題となってきたのもこのころからです。

昭和41年から昭和48年までの校舎

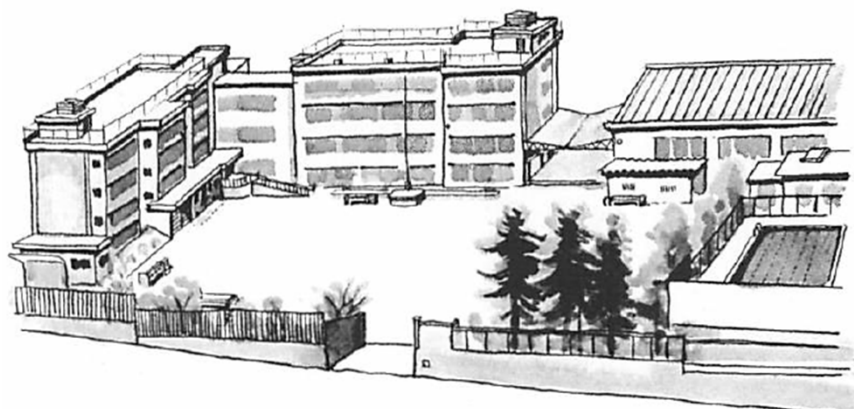
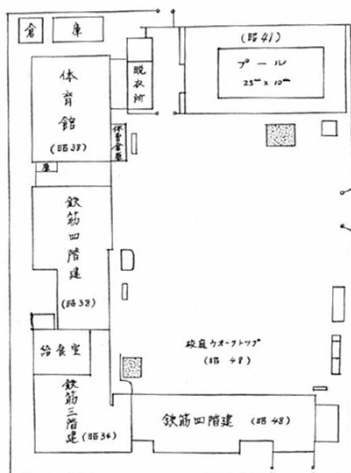


## (8)鉄筋校舎ができる

昭和47年(1972年)6月24日から校舎のたてかえの工事がはじまりました。木造二階だての校舎がつぎつぎとこわされ、しゃしんのようなプレハブの校舎でべんきょうをはじめました。暑い夏の日には、暑さと騒音で大へんくるしい生活がつづきました。

昭和48年(1973年)2月に新しい四階だての鉄筋校舎(今の校舎)ができあがりました。4月には、校庭もほそうされ、ウォークトップのきれいな運動場になりました。

校庭のいろいろなせつびもととのいりっぱな学校になりました。お祝いの集会も全校でおこないました。



## (9)改修工事が行われる ※加筆

平成17年(2005年)に世間を騒がせた耐震偽装事件をきっかけとして、全国の学校の耐震補強工事が進められました。

平成24年(2011年)板四小も大規模改修工事が行われました。当時の職員室などがあった角の校舎(昭和34年築)だけが、耐震強度不足として建て替えられることとなりました。その他の校舎や体育館は補強することで耐震基準を満たすとのことでした。工事期間中は校庭に2階建てのプレハブ校舎を建てて授業が行われました。この年の運動会は板橋第五中学校の校庭を借りて行われました。

平成25年(2012年)校舎が完成し、この時に肯定もウォークトップから人工芝へと変わりました。



## 1. PTA推奨服(標準服)について

標準服誕生！ 高度成長期の昭和41年頃に標準服は作られました。それまでの日本は戦後の復興に皆が頑張っておりましたが、この頃になると、経済的な格差がみられるようになり、学校に着てくる服装にも差が見受けられるようになってきました。

その他の理由もあるようですが、こういった背景から、当時の役員や保護者の間から制服の話がでて、学校と保護者の話し合いから始まり、紆余曲折を経て標準服が誕生しました。

何で茶色なの？

当時もさまざまな色の候補があったそうですが、幼稚園の制服とは違う色がいいとか、汚れが目立たない方がいいとか様々な理由から現在の色に決まったそうです。

標準服からPTA推奨服へ！

平成16(2004)～18(2006)年頃にかけて、「標準服を毎日着るかどうか」ということから保護者、学校の間で議論が沸き起こり、存続の危機を迎えたことがありました。

このときPTA会長であった松山さんを中心に、学校、保護者と話し合い、調整を進め、結論としては「PTA推奨服」という形で存続されることが決まりました。その際、制服のデザインを変更する案も出ましたが、保護者のアンケートの結果、従来の茶色の制服が希望者多数で変更なしとなったそうです。この結果を踏まえて、PTAのしおりが改訂されPTA推奨服となりました。(ちなみに校帽は学校のもので、PTA推奨服には入りません)

1年生はゴールデンウィークまで毎日着ていますし、他の学年も行事の時や校外に出かける時などはPTA推奨服を着ています。今となってはご存じない方もおられますが、「PTA推奨服は毎日着てもいいんです！」というものなのです。ですからそれ以外の日でも着てもいいんですよ。毎日着てもいいんです！

「お金がかかるのでは？」

と心配される未就学児童のご父兄の方もおられるかもしれませんが、PTAの環境衛生委員会が主催で推奨服のリサイクル会を実施していて、着られなくなった推奨服は無料で後輩たちにゆずられています。(もちろんサイズがあるとは限らないので購入される方も多いです)

また、卒業式のときもPTA推奨服ですし、小学校生活6年間にある冠婚葬祭はすべてPTA推奨服で良いので、そういう意味では非常に重宝していて、私服よりはお金がかからないかもしれません。

このような歴史を経て、現在に至っています。それで板橋第四小学校の制服のことを「制服」、「標準服」、「PTA推奨服」と様々な呼び名で呼ばれているわけです。

## 2. 集団登校・登校班

公立小学校では、当校時に集団登校するか、あるいは各自バラバラに行くかは、学校によって異なります。これらは学校での決め事ではありません。

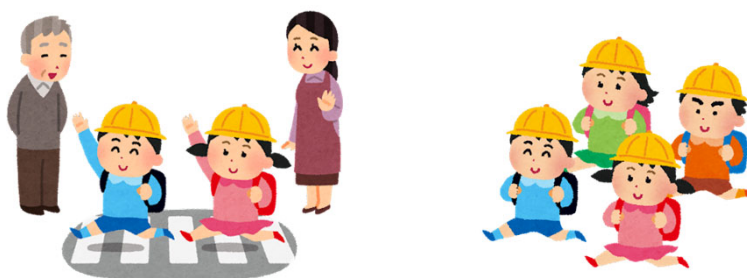
子どもたちの安全面に配慮し、PTA校外補導委員会の活動として、実施されているものです。

そして、登校班を編成するには、子どもたちがどこに住んでいるかという「住所情報」、および班長さんへの連絡、班長さんからの連絡をするための「連絡先情報」を共有する必要があります。

個人情報保護法の観点から、PTAではなく、学校の協力が必要になったために、班の編成等の作業を学校サイドで行ってもらっているようです。

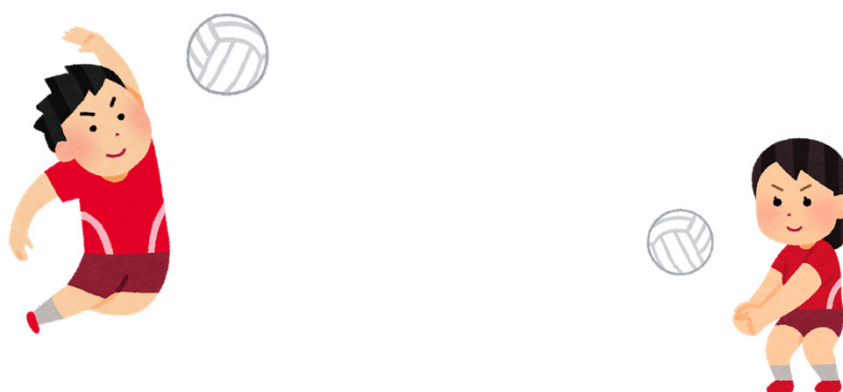
集合場所のプレートには「板橋第四小学校PTA」と入っていることから、集団登校がPTA活動の一環であることが見て取れます。

児童の安全を守る、保護者の皆様が主体的に行っている素晴らしい活動であるにご理解いただけると幸いです！



## 3. PTAバレーボール部

板四小にはバレーボール部があります。これはPTA公認の部活動です。板四小は板橋区の小学校PTA連合会(小P連)に所属しています。小P連では、毎年、ママさんバレーボール大会を開催しています。板四小のバレーボール部もこの大会に毎年出ています。他校と異なり「先生方も参加してくれている」というのが板四小のチームの特徴で、他校からはうらやましがられています！



#### 4. 学校支援地域本部について

##### ◆歴史:

平成24年1月、教育委員会より「来年度の実施予定校の一つが辞退してしまったので、板四小で出来ませんか？」と打診がありました。

当時は山野辺校長先生でしたが、前任の田尻校長先生の時代から「いずれ実施するときは松山元PTA会長をコーディネーターにして、平塚青健会長に本部長を」ということで根回し準備はされておりました。

そこで当時PTA会長最終年を迎えていた上田と、松山元PTA会長を地域コーディネーターとし、平塚青健会長を本部長とする板橋第四小学校支援地域本部が平成24年4月1日より立ち上がりました。

前述の通り、板四小には、地域の町会、PTA、さくら会、桜美会、同窓会といった、力強い応援団が既におりましたので、これらを横につなぐ窓口役として、学校支援地域本部がスタートしました。

また、副校長先生を中心に推進していた「読み聞かせボランティア」の取りまとめを、翌平成25年から、学校支援地域本部で行うようになりました。

##### ◆ゲストティーチャー

平成28年度までに、北原佐和子さんを招いての命の大切さを扱った朗読会、東京エクセレンスを招いた出前授業、ハーゲンダッツ社を招いての「おいしいとは」ワークショップ、狂言師の前田様を招いての狂言の授業、2018年は「全力失敗教室」を実施してまいりました。

##### ◆オリパラ教育

平成28年度はリオデジャネイロのパラリンピアンの木村潤平選手をお呼びし、また、児童の大使館訪問(タイ・アルジェリア)の下交渉などを行っています。

##### ◆ボランティア募集:

平成27年になってからは、中国から日本にやってきた児童が急に増えたため、中国語学科を有する大東文化大学に学生課を通じてポスターを貼りに行き、サポートボランティアの募集を行ったりしています。

じゃあ、学校支援地域本部って何？ 地域コーディネーターって何？ というのですが、ボランティアや出前授業などにおいて、先生方や副校長先生の負担を軽減するために、学校の要請に基づいて調整作業を行う仕事をしています。地域コーディネーターは学校長の推薦に基づき板橋区から任命されます。実は時給も出ますのでお仕事として活動しています。

##### ◆地域コーディネーターの人選はどうしているの？

現在の地域コーディネーターと校長先生と相談して、次年度のコーディネーターをお願いしています。

歴代コーディネーターは、上田禎・(松山浩哉)・(光野美穂)・(高木直子)・山崎智子・長澤三奈子、酒井卯月・(瀬川亜希)。( )は退任。

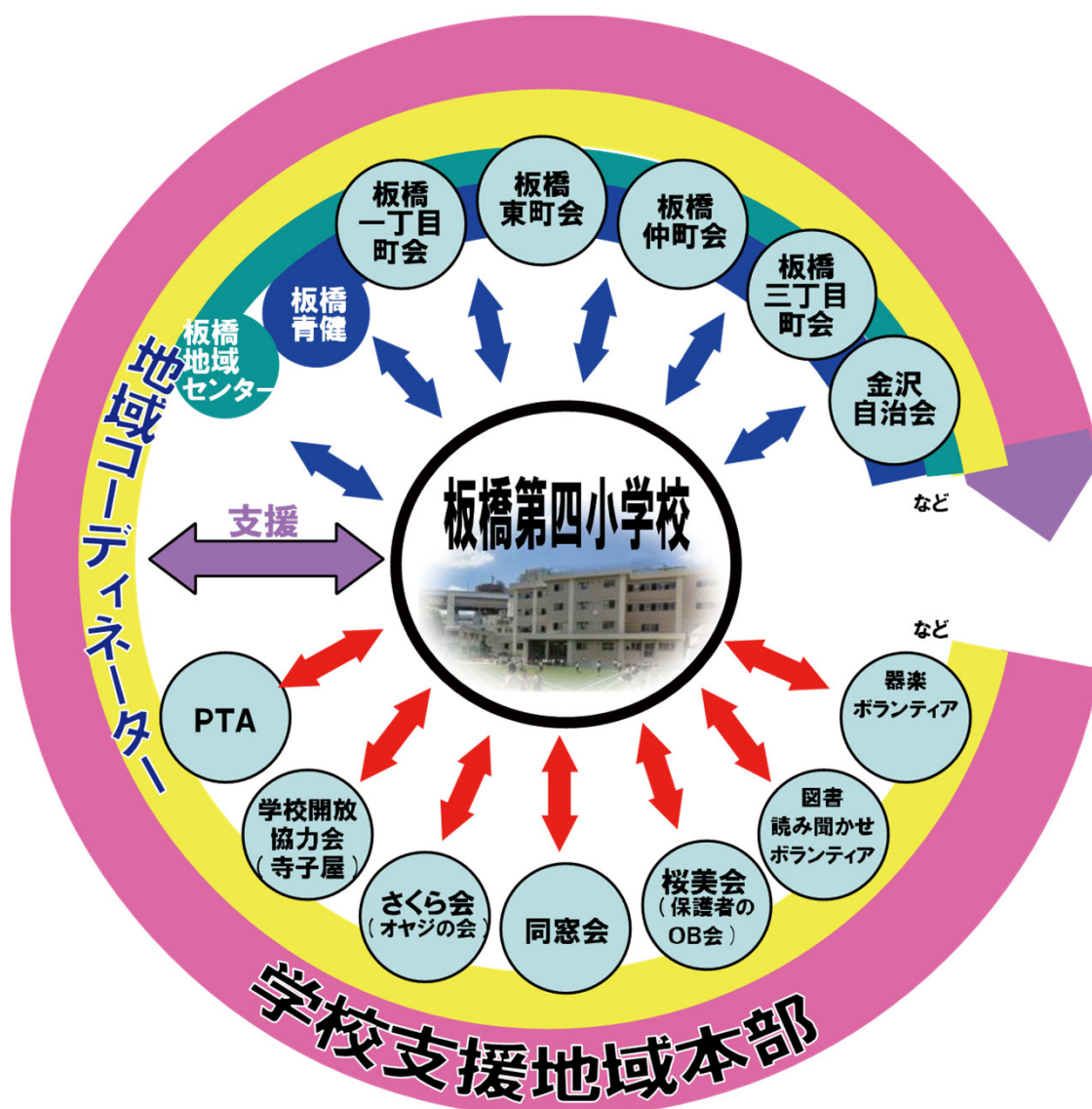
頻りに学校に顔をだして、職員室などウロウロしています。怪しいものではありませんので、よろしくお願いします。

尚、教員の先生方のリクエストにもお答えできるように頑張っていきたいと思います。

## 板橋第四小学校、板橋第五中学校支援地域本部

	板橋第四小学校	板橋第五中学校
本部長	平塚幸雄(板橋一丁目町会長)	空位
地域コーディネーター	上田 禎	
	山崎智子	温品佳之
	長澤三奈子	
	酒井卯月	

次のようなイメージで発足しました。



## 5. 板橋第四小学校・第五中学校コミュニティ・スクール委員会について



コミュニティ・スクール委員会(CS委員会)は、学校運営や学校運営に必要な支援に関する協議を行うため、区立小中学校に設置している会議体です。

委員会では、特に学校が抱えている課題(学力・体力向上、運動会等の学校行事の見直し、携帯電話の学校への持ち込みに係る対応等)に対して、“熟議”を活用して保護者や地域の方が学校とは違う視点で、具体的な解決策等について議論し合います。

2019年度より準備委員会立ち上げ、2020年度より本格活動開始。小中一貫で委員は共通。

### 2023年度 コミュニティ・スクール委員

磯山光浩(板橋東町会長)

植田康嗣(元板五中PTA会長)

上田禎(板四小・板五中地域コーディネーター) ※昨年度CS委員長

太田洋(東京家政大学教授)

加茂下晴美(板橋三丁目町会)

椎谷真知子(板橋地域センター所長)

豊田昌之(板橋法人会) ※昨年度CS副委員長

伊藤秀樹(板四小PTA会長)

松本弥久(板橋五中PTA会長)

温品佳之(板五中地域コーディネーター)

橋本信子(明星幼稚園園長)

山崎智子(板四小地域コーディネーター)

中村徹(主任児童委員)

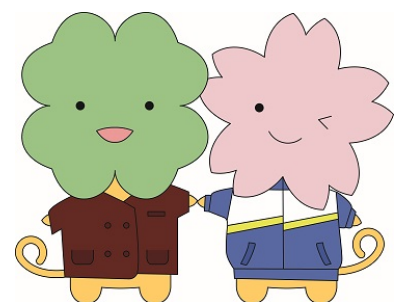
佐藤文泰(東京都立北園高等学校校長)

堀内 祐子(板橋区立板橋第四小学校校長)

福田真理(板橋区立板橋第四小学校副校長)

太田繁伸(板橋第五中学校校長)

須藤千絵(板橋区立板橋第五中学校副校長)





## 1. さくら会とは

板橋第四小学校には「さくら会」というおやじの会があります。

現在では活動範囲が板四小にとどまらず、板五中でも活躍されています。

現在の活動については さくら会ホームページ をご覧ください。

現在は、現役を小等部、五中の保護者を「中等部」、卒業生の保護者を「OB部」と呼んでいます。

さて、このさくら会ですが、この始まりは、平成14年に松山PTA会長が就任した際に、「おやじたちの会を作って子どもたちを応援していきたい」という願いからでした。

当時の関口校長先生にも志はご理解いただいたもののまだ影も形もない状況だったので、すぐに発足を許されたわけではありませんでした。そこで、当時のおやじたちを集めて、おやじの会の準備委員会を発足し、板四小まつりの開催など、2年間にわたり実績を作りあげ、校長先生からも「そろそろいいんじゃないか」というお言葉をいただき、PTA総会にて承認をされたのでした。さくら会にもこんな歴史があるんですよ。ですから、さくら会はちゃんとPTAの承認を得て設立された板四小の「おやじの会」なんです。

平成20年度で、当時のさくら会の創設メンバーであった元PTA会長の松山さんや元PTA会長の中嶋さんのお子さんが卒業されましたので、創設時のエピソードを知る保護者も少なくなっただけでありません。そこで保護者の皆様にも「さくら会」について未永く知っておいていただくためにここに記事にいたしました。

歴代会長は、(初代)中嶋晃一、(第2代)琴 基文、(第3代)石井弘昭、(第4代)温品公志、(第5代)栗林仁、(第6代)岡英穂、(第7代)木幡善文 (第8代)奥山裕樹[敬称略]。

初期は黒いTシャツ、現在はイメージを一新し桜色のTシャツを着ている人たちは何だ？と思われた方。板四小の応援団、さくら会の熱いおやじたちです。(もしかしたらたまに暑苦しいおやじもいるかもしれませんが、情熱の表れですのでご容赦を！)



## 2. PTAのOB会は「桜美会(おうびかい)」

板橋第四小学校には90年の歴史があります。今までにも子どもたちのためにPTAの役員としてあるいは委員としてご活躍いただいた方々がたくさんおられます。現在も地元板橋で、町会やあるいは青少年健全育成板橋地区委員会などでご活躍されている方々も多くおられます。

歴史と伝統があるということは素晴らしいことです。

PTAのOBや元学校長などで「桜美会」という会が作られています。周年行事の時だけでなく、板四小まつり(板四小まつりで無料配布されているチューペットは桜美会の提供です)でもご協力いただいています。3月に天国に旅立ったうさぎの「うさまる」も桜美会からのプレゼントです。

そもそもは、約30年前、板四小創立60周年記念行事をバックアップする目的で発足しました。板四小卒業生の保護者すべてが会員の資格を有しています。自主的な活動というよりは、現行PTAから依頼があれば協力するというスタイルで活動しています。

平成23年の総会において、岡本会長から松山会長へとバトンタッチされました。

平成26年度の総会で松山会長から飯田会長へ。

令和元年に上田会長へと引き継がれています。

## 3. 板橋第四小学校同窓会

平成23年の同窓会が第12回でしたので、平成10年に発足したものと思います。これは当時の卒業生の中で、70代～80代の地元の卒業生のみなさんが呼びかけて同窓会を立ち上げました。

したがって、比較的、歴史が浅いため当初は20代～40代のメンバーの人数は少なめでした。(ここ数年で卒業生の保護者なども加わって若い人も増えてきました)

創設当時、卒業生の認知度はあまり高くなかったと聞いておりますが、10年以上の実績を重ね、今では、板四小同窓会として重要な存在となっています。

創立80周年記念の際には、テントを寄付いただきました。板四小にある一番新しいテントは、同窓会から贈られたものです。

平成22年度からは、放課後に子どもたちの勉強を見ていただくお手伝い(放課後補充教室の先生)も、中心になって行って頂いております。現在も放課後補充教室は同窓会のメンバーが中心です。

令和5年(2023年)度から会長は豊田毅さんです。(前任:岡会長、その前:岸会長、龍田会長)

現在では、同窓会は板四小の最強応援団のひとつです。



#### 4. 板橋フェニックス(少年野球)

平成23年(2011年)、板橋地区にあった「板一スワローズ」という野球チームが、9人の選手が卒業した結果、かつては5チームあったこの地域から少年野球チームが無くなってしまいました。



板橋一丁目町会長で青少年健全育成板橋地区委員会長の平塚さんが当時のさくら会の温品会長に新チーム結成の相談をしました。そこから当時の学校開放協力会長を兼ねていたPTA会長の上田に相談があり、寺子屋野球教室を開催することにしました。その結果30人を超える参加者がいて、それならばということでH24年に「板橋フェニックス」が誕生しました。(上田は球団代表兼事務局長、現在、総監督:福田さん、Aチーム監督:杉谷さん、BCチーム監督:齊藤さん)

創部から3年で昨年、仲宿秋季大会で4年生以下準優勝、仲宿卒業大会で4年生以下優勝までできました。そして、板橋区18地区の代表が出演し「板橋区の甲子園」と言われる平成28年(2016年)度板橋区親善大会では、強豪を破り初優勝しました!

平成29年度は3ブロック大会、仲宿秋季大会・卒業大会、板橋軟式少年野球連盟秋季大会・春季大会と5大会連続優勝しました!

令和4年度は仲宿秋季大会で初の1部(6年生以下)、2部(4年生以下)のダブル優勝をはじめ、志村連盟会長杯優勝など、いくつもの大会で優勝しています!

複数の女子選手も活躍しています!



#### 5. B☆Bキッズ(バスケットボール)

体育館をよく借りている「B☆Bキッズ」。平成18年まで板四小で教鞭をとられていた黒岩先生が子どもたちを指導していました。現在は丸山和幸監督、多田政人ヘッドコーチが指導しています。

板橋区内の近隣地域からも来ていますので、必ずしも板四小の児童だけではありません。練習は、土日が主でさまざまな大会などにも参加しています。

2022年度は、区民大会において、女子は優勝! 男子もベスト16という素晴らしい成績を納めています!

とても活発に活動している元気なチームです!!



#### 6. 板四剣

体育館をよく借りている「板四剣」。現在は増田会長です。もともと第14代PTA会長だった吉原さんが始めたと聞いています。板橋警察の方もたくさん参加しており、7段が8人ぐらいいらっしゃるといすごい剣道の会です。

平成23年度ごろに、寺子屋事業で剣道教室を実施したところ、板四小の子供たちもたくさん参加するようになり、現在でも沢山の児童が板四剣で汗を流しています。水曜日の夜と、日曜日の午前中に体育館で活動しています。ほとんど子どもたちのために時間を割いてくれています。



## 1. 板橋第五中学校

板橋第五中学校は平成27年度に創立60周年を迎えました。板四小から石神井川に向かった加賀公園の手前にあります。



小中一貫校でありとなっている中学校です。数年前の一時期は生徒数の減少傾向が続いた結果、スポーツ系の部活動が減少しました。このことが影響し、板四小の卒業生の一部が、近隣地区の板一中や加賀中に進学するようになりました。今でも一番多くの卒業生が通う中学校が板五中です。

2022年3月に天国に旅立ったうさまろの小屋にある木製の家は、板五中の模型部の生徒が製作してプレゼントしてくれたものです。

少なくなった運動系部活動の中でも、ソフトテニス部は伝統的に強く、毎年、東京都大会まで出場するような強豪校とっています。

現在野球部も作られ、単独で大会に参加できるようになりました。

「生徒が自分で考える」教育を推進していて、制服は学ランにセーラー服と、開校以来、変わっていませんでしたが、現在はTPOをわきまえたふさわしい服装であれば私服でもOKとなり、入学式、卒業式を私服で参加する生徒も見受けられます。

また、スマートフォンの学校への持ち込みは原則禁止ではありますが、条件を満たした場合に限り許可されています。

これらの条件の作成には生徒たちが自ら考え、制定していきました。この活動が注目され、読売新聞にも掲載されました。

### さくら会(中等部)

板四小のさくら会は、小等部・中等部・OB部と別れており、中等部は板五中の保護者が会員となっています。つまり、おやじの会も小中連携の体制をとっています。

### 板五中 学校支援地域本部

板五中の学校支援地域本部、地域コーディネーターは、上田が板四小と兼務しています。その他、温品さんが地域コーディネーターを務めています。

学校支援地域本部も現場レベルでは小中一貫の体制となっています。

## 2. 東京都立北園高校

板四小のお隣が北園高校です。旧東京府立第九中学校(ふりつくちゅう)です。板四小と北園高校にまたがって、加賀藩下屋敷のお料理を作るところがあったそうです。板四小の校長先生が北園高校の学校運営連絡協議会の委員となっています。

また、板四小改築工事の際は、桃の木を移設したエピソードは職員室前の柵の外に物語が書かれています。ご一読を。

その他に放課後補充教室のボランティアや、PTAのベルマークにあたるインクカートリッジの回収にも生徒会が協力してくれたり、交流もあります。

### 3. 近隣 地域センター・町会・青健など

#### 地域センター(旧板橋区役所出張所)

地域センターは区内に18か所あります。板四小も板五中も、「板橋地区」になります。したがって、管轄する地域センターは板橋地域センターです。場所は不動通り商店街のファミマの裏です。

他校では、複数の地域にまたがるため、地区も複数(場合によっては4地区)に所属することもあります。板四小、板五中は区界に位置するため、1地域にしか属していません。学びのエリアとしても小学校:中学校が1:1ですので、小中一貫校に適しています。

#### 町会

町会は、地域のまとまりで、実質的には行政の最小単位となっています。加入は任意となっていますが、いざ、大災害発生時などは、行政の手がすぐには届かないため、避難所設営や運営などは、地域の町会が協力して行います。



2011年の311東日本大震災を経験した時に町会の重要性を再認識しました。ぜひご加入されることをお勧めします(個人の意見です)。

ご自身がどこの町会に所属するかは板橋区のホームページ(QRコード参照)で確認できます。

板橋地域センターにご相談いただきますと、各町会につないでくれます。

板橋区町会連合会(板橋区全体)の会長は、板橋一丁目町会長の平塚会長です。

町会連合会の支部は、「板橋支部」となり、支部長は板橋四ツ又町会の林会長です。令和5年度より板橋三丁目町会の寄藤会長の予定。

板橋支部は10町会ですが、板四小とかかわりの深い町会は5町会です。

板四小、板五中は『板橋仲町会』(篠原会長。令和5年度より上田会長の予定)にあります。スーパーライフより巣鴨よりが『東町会』(磯山会長)です。

板橋駅前本通り商店街(フルヤ眼鏡店がある通り)よりも下板橋側が『板橋一丁目町会』(平塚会長)です。

ガストの先不動通り商店街の辺りが『板橋三丁目町会』(寄藤会長)です。

そこから東板橋体育館の方へ降りて行ったあたりが『金沢自治会』(中島会長)です。

板五中の先は地番が加賀で、昔は板四小の学区でした。加賀五四自治会は竹澤会長です。

## 青健(せいけん)

「板橋区青少年健全育成板橋地区委員会」という板橋区の活動の板橋地区における委員会です。通称、『板橋青健』や『板青』と呼ばれています。

板橋地区委員会の会長は板橋一丁目町会の平塚会長です。これも地域センター同様に板橋区内に18の地区委員会があります。少年野球の板橋区親善大会などは板橋区と青健の共催です。

その他にも、夏のキャンプ、あそびの広場、12月のドッジボール大会、3月の水泳球技を楽しむ会など、板橋青健の事業として子どもたちのために行っています。

P T Aの行事にも青健から補助費が出ているものもあります(年間2~3万円程度)またPTA会長は自動的に板橋青健の理事となります。その他、各町会の青少年部長などが理事となっています。

## ジュニアリーダー

板橋区青少年委員会の事業で、18地区でそれぞれジュニアリーダー(小学校4年生~高校3年まで)が活動しています。青少年健全育成地区委員会の事業や、いきいき寺子屋事業をはじめ、様々な行事において、レクリエーションゲームの進行や工作の指導など、運営側のスタッフとして手伝いをしています。板橋地域センターで申し込みができます。

板橋地区の青少年員は関さん、原さん、竹花さんの3名で、原さんは板四小の元PTA会長です。

## 商店街

JR板橋駅から、荘病院の辺りまでの商店街を『板橋駅前本通り商店街』(古谷理事長)と言います。商店街にある街頭には、板四小の児童の描いた絵画が飾られています。

また、秋のお祭りでは、6年生による金管パレードや板五中吹奏楽部の演奏会を実施させてもらっています。

## 板橋法人会 第一支部

現在、支部長は萩原さんで、iCS委員の豊田さんが副支部長です。板四小では第一支部がバックアップして「出前コンサート」として、近隣に住む声楽家である加茂下ご夫妻(奥様はCS委員)とそのお弟子さんたちが来校し、素敵な歌声を聞かせてくれています。



## 民生委員・児童委員

民生委員・児童委員は、地域の方々の悩みごとや困りごとのご相談に応じ、区や関係機関へつなぐかけ橋の役割を担っています。生活に困っているなどの相談に応じたり、ひとりぐらしの高齢者の見守り活動をしています。また、児童については、家庭や子どもの問題について、地域・家庭・学校・その他の関係機関とも連携して活動しています。民生委員・児童委員は、地域から推薦され、民生委員法に基づき厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員です。給与の支給はなくボランティアとして活動しています。各町会に2～3名おります。ご自身の町会の委員にご相談ください。

(地域コーディネーターの上田も板橋仲町会の民生児童委員ですし、山崎さんも板橋二丁目町会の民生委員です。分からなければ下記のメールからお問い合わせください)

## 主任児童委員

主任児童委員は、他の民生委員・児童委員と協力して子どもや子育てに関することなど、児童福祉に関する支援を専門的に担当する民生委員・児童委員です。案件に応じて学校など関係機関と連携・協力しながら活動をしています。

板橋地区は、元板四小PTA会長の中村徹さんと、元金沢小学校PTA会長の坂田さんです。

本冊子は、学校支援地域本部、地域コーディネーターの持つ情報を基に作成しています。もしかしたら、一部不正確な部分もあるかもしれません。その場合はご容赦いただくとともにご指摘ください。

また今回から50周年記念誌に記載されていた貴重な情報を転載させていただいております。

地域について知り、理解の一助とすべく作成したものです。今後とも本校教育へのご理解ご協力をよろしく申し上げます。



板四小  
支援地域本部

2023年4月1日 地域コーディネーター  
上田 禎、山崎智子、長澤三奈子、酒井卯月  
温品佳之

ita4sch@gmail.com